

2023_1219「午後3時のオーロラ（写真）」日々の理科 3421号

お茶の水女子大学 サイエンス&エデュケーション研究所 田中 千尋

北極圏は「極夜の季節」に入っています。「極夜（きょくや）」というのは、一日中（24時間）地平線（または水平線）上に、まったく太陽が昇らない日のことです。北極圏（北緯66度33分以上）では、1年に1日以上極夜の日は訪れ、緯度が高いほど極夜の継続日数が長くなります。逆に言えば「極夜が1日以上訪れる土地」を「北極圏」と呼びます。つまり「北極圏」とは、気候学上や植生上の区分ではなく、地理学的または天文学的な区分と言えます。極夜の訪れる土地では、夏には必ず白夜（太陽が一日中沈まない日）もあります。また、同じことは南極圏にも言えます。

極夜といっても北緯70度以南では、正午前後に南の空がやや明るくなります。しかし太陽は昇らず「朝焼けがそのまま夕焼けになって、すぐに夜になる」という表現が合っています。いずれにしても今の時期の北極圏は夜が長いので、オーロラ観望には適しています。先日も早くも午後3時にオーロラが見え始めていました。淡く美しい極光でした。

（2023年12月中旬／スウェーデン・ヨックモック郡・ポルユス／東京から遠隔観測）

